

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 7 年 5 月 9 日

(あて先)  
さいたま市長



提出者

住所

さいたま市緑区大門2619

氏名

積田冷熱工事株式会社

代表取締役 積田鉄也

電話番号

048-767-6051

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

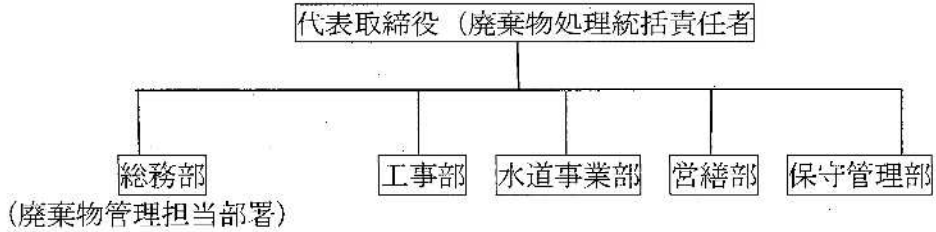
事業場の名称	積田冷熱工事株式会社
事業場の所在地	さいたま市緑区大門2619
計画期間	令和7年4月1日から令和8年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	総合工事業
②事業の規模	2,800,000(千円)
③従業員数	30人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	がれき類(アスファルト廃材)→破碎(委託)→再生加熱アスファルト混合物として再利用 がれき類(コンクリート廃材)→破碎(委託)→再生砕石として再利用 汚泥→高度脱水処理(委託)→最終処分場で埋立処分(委託) その他がれき類(路盤材)→破碎(委託)→再生砕石・再生砂として再利用 廃プラスチック類→破碎・圧縮→再生利用または安定型埋立 金属くず→破碎・切断→再生利用 廃アルカリ→焼却処理 紙くず→破碎・焼却→再生利用または管理型埋立 石棉含有廃棄物→管理型埋立 建設混合廃棄物→分別・破碎・焼却→再利用・安定型埋立・管理型埋立 水銀使用製品産業廃棄物→焼却処理 ガラス・陶磁器くず→破碎・選別→再生利用 廃石膏ボード→破碎・選別→再生利用 木くず→破碎・焼却→再生利用または管理型埋立

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度 ( 6 年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排 出 量	3091.459 t	t
	(これまでに実施した取組) 廃棄物の分別を行い、各廃棄物の排出抑制を図る。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排 出 量	2800 t	t
	(今後実施する予定の取組) 今後とも、廃棄物の分別をおこない各廃棄物の排出抑制を継続する。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 種類：がれき類、木くず、紙くず、石膏ボード、廃プラスチック類 取組：分別し再生処理施設で処分している
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状の取組を継続する

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 6 年度）実績 なし】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 6 年度）実績 なし】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 6 年度）実績 なし】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 委託契約時に運搬・処分許可証の確認を行い、発生場所から各委託先まで追跡調査にて処理状況の確認を行っている。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	全処理委託量	3091.459 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	54.689 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>引き続き委託契約時に運搬・処分許可証の確認を行い、マニフェスト発行及び最終処分完了までの処理状況の確認を行う。</p>			
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

